



双塔

カトリック新潟教会

2018年9月
No. 364

イエスと隣人（二）

協力司祭 鎌田耕一郎

（イエスと使徒）公生活の中で、イエスに最も近かったのは、使徒たちであったことはいまでもない。使徒たちについて専ら無学なものであったことが強調されるが、少し聖書を丁寧に読むならば、それぞれ生き生きとした個性を持ち、語り、活動する彼らの姿を読み取ることができよう。彼らは皆一人前の大人であり、その世界観や価値観はこれから形成されねばならぬような人々ではなかった。しかし、それは改革されねばならなかったのである。使徒たちは、しばしば、しかも重大な点でイエスを理解しなかったし、時にはその教えに対して抗言することさえあった。更に、それが善意に基づくとはいえ、イエスが御父のみ旨として成し遂げることを望んだ使命から離脱せしめようとすらしめたのである。イエスの、死についての予言を、まじめに受け止め理解したのは香油を注いだひとりの心優しい婦人であって、それを浪費と考えた使徒ではなく、また、十字架の意味を最初に理解したのは、逃亡した使徒たちではなく、イエスの右にはりつけられた盗賊であったことは驚くべきことである。

だが、イエスは教え、ある時は叱責し、理解の時に冷静な忍耐をもって待ち続けたのである。使徒たちに対するイエスのみ心は、「これからもう私はあなたたちを僕とは呼ばない……友と呼ぶ」（ヨハネ 15・15）というみ言葉と、「最後まで彼らに愛をお示しになった」（同 13・1）という、ヨハネの証言に要約されるだろう。

彼らはゲッセマニのイエスを見捨てた後は、決してイエスのみ言葉とその生涯の思い出を捨てることはなかったのである。（ズイクムンド“キリストと現代”参照）

（イエスと病人）福音書に記録されたイエスの奇跡の数は、約38であり、その半数以上は病人の治癒である。病人に対するイエスの憐れみと関心は深いものであった。ハンセン病（ライ菌の発見者の名前で呼ばれる病気）を通して眺めてみよう。この病気は悲惨であるばかりではなく、ユダヤの世界では特別のものであった。（レビ記13、14章にはそれに関する注意と戒めがある。ルカ17・12、マタイ8・2）。病者は破れた衣服をつけ、顔をかくし、町の外に住まわねばならなかった。他人に会ったときには、自ら「穢れたもの」と叫んで身を隠す義務があった。この病は律法上の穢れをもたらし、家に入ればそれを汚すことになるのであった。また幸いに病が癒えても、神殿の司祭に典礼的に清められなければ、その社会的な地位を回復することが出来なかった。この病気はユダヤ人にとって、肉体的にも社会的にも人を葬り去り、いわば生きた死者にしてしまうものだったのである。イエスがハンセン病患者に近づき手をさしのべ、触れたという行為は、このような状況のもとに見られなければならぬ驚くべき行為だったのである。イエスは憐れみだけではなく、痛めつけられた肉体のなかに不滅の霊をみたのである。病人が自己中心的な苦しみや、陰気な不安によって、周囲の人々にとって重荷であったとしても、いたわられるべき存在であり、病人の人間性の回復が行われたのである。病と死は、誰もそれを免れることができないために、イエスが病人に与えた光は、医学の偉大な光よりもなお明るいものなのではないだろうか。



そよかせ便り



■ 新津・新潟教会合同サマーキャンプ@新潟教会 ---- 7月28日(土)・29日(日) ----

平成最後の夏、新津・新潟教会合同サマーキャンプは記録的な猛暑日の中行われた。新潟教会から9人、新津教会から7人の子どもたちが集まった。ラウル神父様、伊藤神父様をはじめ、多くの青年たち、保護者、お手伝いに駆けつけてくれた人たちに見守られながら、祈りをともに、親睦を深めた。青年たちのアイデアで緊張する自己紹介も楽しいゲームに。その他お楽しみは盛りだくさん。聖堂前での水遊びは大人も子どもも大いに盛り上がった。主日のミサでは侍者、奉納、朗読を経験し、聖堂内には子どもたちの澄んだ歌声が響き渡った。

■ 聖母被昇天祭 ---- 8月15日(日) 10:00 ----

観測史上最高という気温を連日たたき出す猛暑の中、ミサはラウル神父様とロレンゾ神父様の共同司式で捧げられた。「こんな暑い日に長い説教はしたくない」と、ラウル神父様は教会はマリア様について、イエス様や救いの歴史とのつながりで語りながら、教会とマリア様との関係についても語っている(「カトリック教会のカテキズム」966参照)と指摘。「教会の初穂」(当日の叙唱)であるマリア様の姿を見つめながら、どんな悲惨な状況にあっても、私たちの最終的な姿はマリア様の姿であるという教会の希望に与るようにと招かれた。

ミサ後には約60名が集いBBQでお祝いをした。気温34℃の中、焼き方の男性陣が大汗をかきながら焼きそば・焼き鳥をふるまってくださり、皆でおいしくいただいた。子ども達は青年が用意してくれたスイカ割りとお水遊びに興じ、周りの大人を巻き込んでびしょ濡れになって涼を楽しんだ。センター研究室では話の輪ができて、ゆっくりと食事を楽しむ姿が見られた。忙しい日常を離れ、それぞれに夏の午後を楽しんだ一日となった。

あ ゆ み

No.91 小教区評議会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導 主任司祭 ラウル神父

開催日時 2018年9月8日(土) 午前10時～11時

会 場 カトリックセンター研究室

※ 『聖ヒッポリュトスの使徒伝承』を手掛かりに典礼について学びます。

どなたでもお気軽にご参加ください。いつからでもOKです。

カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑町通一番町656 TEL:025-222-5024 FAX:025-222-5054